



バンクーバーでのパレード(1926年)。
山車の横幕は、対日貿易の重要性を強調している。

対日輸入		1939年	対日輸出	
茶	\$ 392,557		純ニッケル	\$ 8,792,740
亜麻仁、麻、ジュート、加工品	338,622		アルミニウム棒	7,801,052
いわし缶詰	247,098		鉛地金	2,672,322
みかん	225,961		純銅	2,383,122
綿織物	217,967		石綿	2,070,903
陶器、焼物	202,434		亜鉛鋳塊	1,273,662
人絹織物	178,691		くず鉄鋼	565,201
絹織物	164,721		丸太	469,677
おもちゃ	138,232		紙パルプ	448,902
綿製ハンカチ	138,059		生皮	202,378
電燈	113,318		乾燥・塩漬けにしん	189,155
その他	2,506,880		その他	1,298,493
合計	\$ 4,864,540		合計	\$ 28,167,607

を認められたものとして、日本では熱烈に歓迎された。英国は、一九一一年、日

本とさらに新しい通商航行協定を締結する。同協定は一九一三年にカナダにも適用され、日加貿易に新時代をもたらすことになった。

一八九九年、日本の対外輸出は総額二億一千五百万円に達した。そのうち、対米輸出額は六千三百九十万円と全体の三十パーセントを占めた。英領アメリカ(すなわちカナダ)への輸出額は、二百三十五万円、すなわち全体のおよそ一パーセントであった。輸入は、総額二億二千万円。米国のシェアは二十パーセントで、英領アメリカのシェアはわずか十分の一パーセント弱(十八万二千余円)に過ぎなかった。しかしながら、順調な日加貿易の基礎は確立され、その後、カナダ経済の発展および日本の近代化、工業

化と並行して貿易も伸びていった。

例えば、カナダの対日小麦輸出額は、一九〇三年の二百六十七万ドルから翌年は十四万八千五百五十万ドルと大きく飛躍し、一九二二年には実に三百一十一万六千六百二十一ドルへとふえている。一九二六年になると、輸出量千五百五十二万七千七百三十九ドル、額にして千六百三十六万五千九百九十九ドルを記録し、日本はカナダ最大の小麦市場のひとつとなった。

関東大震災と大恐慌

また塩漬け鮭の輸出も上昇を続け、一九二六年には塩漬けにしんと合わせて、輸出額は百四十万ドルに達している。一九二〇年代に入って、林産品の輸出も伸びた。一九〇四年に十万ドルに満たなかった林産品の輸出は、一九二二年になると二百万ドルを超えている。米松と杉が中心であった。そして翌一九二三年に日本で関東大震災が起こると、カナダ産の丸太や木材に対する需要が一挙に高まり、その年の輸出高は前年の二倍にのぼった。

一九二四年の林産輸出は、それをさらに上回り、五百七十万ドル相当の杉材、米松、米つが、とうひなどが日本に送られている。また大地震の年には小麦の輸出額も二倍以上に増えた結果、カナダの対日総輸出額は二千六百九十三万一千八百六十ドルと前年の二倍に達した。赤字続きであったカナダの対日貿易は、一転して黒字へと変わり、また日本はカナダ第四の輸出相手国へと飛躍した。そのとき以来、カナダの対日貿易は、今日に至るまで輸出超過となっている。

一九二六年における日加貿易は、カナダ

対日輸入		1951年	対日輸出	
鉄板圧延プラント	\$ 1,174,000		小麦	\$ 29,478,000
絹、絹製品	1,034,000		紙パルプ	16,946,000
焼き物	994,000		大麦	7,459,000
魚、水産品	903,000		アルコール飲料	5,011,000
みかん	876,000		亜麻仁	3,433,000
おもちゃ、人形	669,000		石綿および加工品	1,708,000
綿、綿製品	593,000		ウールおよび製品	961,000
鉄合金	492,000		小麦粉	877,000
家庭日用品	455,000		鉄鉱石	821,000
毛皮	435,000		石炭	814,000
その他	4,952,000		その他	5,471,000
合計	\$ 12,577,000		合計	\$ 72,979,000

の対日輸出額が三千四百六十九万一千八百六十二ドル、対日輸入が九百五十六万四千七十四ドル。カナダの主な輸出品は小麦(全体のおよそ半分)、鉛、亜鉛、木材パルプ、乾燥・塩漬け魚、木材および丸太、アルミニウムなどとなっており、そのパターンは現在と大して変わらなかった。

カナダの対日輸入品の筆頭は絹織物(全体の約六割)。そのほか、茶、米、みかんなどの食品、綿製品、陶器やランプ、おもちゃなどの家庭用品をカナダは輸入していた。

やがて世界は大恐慌へ突入する。世界経済は崩壊し、日本も大きな打撃を受けた。物産市場や株式市場は崩れ、数多くの中小企業が倒産した。失業者はあふれ、また米国の巨大な絹市場の相場が暴落するとともに、日本の農業地帯も不況の波に洗われることになった。経済不況は、ヨーロッパや極東における政治的不安定